

COLUMN

慢性的な人手不足の情報が流布される結果、今年も学生優位の「売り手市場」が定着したかのような印象を持つてしまいがちです。しかし、実際には企業規模による企業格差が採用格差を生んでいます。ここに落とし穴が潜んでいます。

中小企業の採用は、学生優位の「売り手市場」でしそう。来春卒業予定の学生採用で見るならば、従業員300人未満の中小企業の求人倍率は、9・91倍で過去最高との調査もあります。学生1人に対して約10件の求人があるということです。同一業種であっても企業規模が小さいほど、採用に苦戦しています。他方、同調査によれば、従業員5000人以上の大企業の求人倍率は0・37倍で過去最低でした（朝日新聞）2018年6月4日付記事）。大企業は相変わらずの「狭き門」です。寄らば大樹の陰か。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。女子学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

いよいよ 本格的な夏を迎えますね。北の短い夏を満喫したいと思います。来春卒業する学生の就職活動も、ひとつ目の山場を終えようとしています。

仕事について考える
札幌大谷大学社会学部
教授 平岡祥孝

連載
87

いると思えてなりません。あくまでも私見ながら、バブル期の採用とは様相が異なりますね。杞憂に終わればよいのですが、むしろ支援が必要な学生が増えてくる可能性があるかも知れません。

準備不足にもかかわらず、根拠なき強気一辺倒で向かっていくあまり、ことごとく失敗する学生。売り手市場に安住して「何とかなるだろ」と油断したために焦りを覚える学生。チームバリューだけを志望動機としたために大手企業の選考に軒並み落ちて、「周囲は内定が出ているのに、なぜ内定を獲られないのか」と落ち込む学生。その他諸々。

いつもながらの私の独断と偏見ですが、正しい方向に向けて努力さえ惜しまなければ、まだ内定数ゼロでも十分間に合いますよ。もし例のお祈りメールや不採用通知を受け取つたならば、ここはレジリエンス（回復力）とともに、かのフランクリン＝ルーズベルト米国大統領の経済政策を思い出して、「就活二ユーディール」に取り組みましょう。就職活動を「新規まき直し」すれば良いではありませんか。「負けに不思議な負けなし」ゆえ、まずは敗因を冷静に分析することから始めましょう。謙虚に振り返り、助言には素直に耳を傾け、安心して働くことができる地元の中小企業を目指すことも、地

域貢献のひとつでは。

就職活動も学びの機会のひとつと捉えて、原点回帰から再挑戦していきませんか。仕事に対する自

分軸を定めたうえで、広い視野を持つて中小企業を目指すならば、むしろチャンス到来かもしれませんね。人生は回り舞台。原点回帰から再挑戦していきましょう。エントリー・シートや履歴書を点検して丁寧に書くこと、SPPなどの筆記試験対策をあこなうこと、新聞を読むこと、面接指導を受けること、ビジネスマナーを再確認すること等々、就職活動の基本に忠実に従うことが最善の策。そのためにはやはり十分な時間をかけることです。アルバイト過多に陥ることなく準備万端整えることこそが、自信を持つ第一歩。



しらかは保育園
にじ組のみんな

6月6日に交通安全教室があり、おまわりさんに正しい横断歩道の渡い方を教わいました。
最後はかっこいいおまわりさんと一緒に敬礼！
これからも交通ルールを守って、皆で楽しくお散歩にでかけるぞ～



町長室から

現天皇陛下

(ご)退位により、平成31年5月1日から新たな年号に変わりますが、5月、6月と過ぎると平成の時代が残り少なくなっていく寂寥感が増してくるような気がしています。

役場では6月からクールビズで仕事をしています。

ノーネクタイですので、最初は少し違和感もあると思いますが、ようしくお願ひいたします。

例年であれば5月下旬から6月上旬にかけての北海道は俳句の季語にもなっている「リラ冷え」(リラとはライラックのこと)で、まだまだ肌寒い日が続くのですが、今年は季節はずれで29度、30度を記録する気温が6月前半に続きました。

ノロウイルス流行の兆しもあるようですし、中旬になつて急速に温度が下がりましたので、これからは天気予報とにらめっここの季節になりそうです。皆様には体調管理に十分気をつけていただきたいと思います。先日「生活安全推進協議会」の総会があり、池田警察署から昨

年北海道で交通事故でお亡くなったりになつた人は交通事故の統計では最も少ない148人だったが、シートベルトを着用していると24名の尊い人命が救われていたということでした。改めてシートベルト着用が必要を感じました。

4人目の浦幌町アンバサダーを廣川冠太氏に委嘱をさせていただきました。

廣川氏は浦幌町観光プロモーションミュージックビデオ「浦幌の歌」を作詞作曲した地元出身のミュージシャンです。

現在は帯広市を中心にライブで活躍しており、今後も浦幌町を発信していくことに期待するものです。

先日、浦幌町昆布刈石で数千年前の寒冷な時期に氷の圧力で土が変形して形成されたものとされる「十勝坊主」が確認されました。

昨日、4月に町立博物館の持田学芸員が発見していたのですが、大学の地理学者が現地で周辺を整理して形状を確認し、6個がまとまった形で存在するこ

とを証明したものです。

既存の分布図が内陸部にあるのに對して、海に近い谷底の雑木林の中にあることに学者の皆さんは驚いたようです。

「国民健康保険事業実施計画」

について府内で協議をしましたが、国民健康保険加入者のうち特定検診の受診率については国が60%を基準としているのに對して浦幌町は平成29年度で約47%と低い数字となっています。浦幌町の場合は重篤化してからでなければ医療機関にかかるない傾向があるのですが、健康づくり、生活習慣病の予防効果には定期的な特定検診は必要不可欠です。

町民の皆様には是非年に1回の特定検診で健康維持を図られる事をお願いしたいと思います。「千人踊りの会」が創立30周年を迎えた式典が行われました。

本会を創設されました皆様、そして、「これまで活動を継続されてきました皆様には町民を代表して心から敬意と感謝を申し上げました。

〔千人踊りの会〕は昭和63年に

開町70周年事業の一環として創設された「浦幌音頭」の保存伝承と普及に寄与することを目的に、町民有志の呼びかけにより結成され、設立されました。

平成6年には浦幌町文化協会に加盟し、浦幌町文化協会の中心的役割も担つておられます。これまで浦幌町の各種行事にも積極的に参加され所期の目的を果たされながら、浦幌町の花として活動を継続されておられます。

設立当時は170名を数えた会員も現在は若い世代の参加が無いという「苦勞もあるようですが、衣装は100人分が揃つているようですが、本式典を契機として会員の増強を図られて、今後とも浦幌町の文化を継承し、愛郷の輪を広げるべく活躍されます事、また更に発展されます事を祈念したいと思います。

浦幌町長 水澤一廣